

第 7 回日仏規制当局間会合の結果概要について

令和元年 9 月 11 日  
原子力規制庁

1. 開催概要

○9月3日及び4日に、原子力規制委員会と仏国原子力安全規制機関（ASN）の日仏二国の規制当局による第7回日仏規制当局間会合がフランス国モンルージュで開催された。

○本会合は、原子力規制委員会と ASN との間で取り交わされた協力文書（実施取決め）及び同取決めに関する覚書に基づいて、双方持ち回りで毎年開催しているもの（前回第6回会合は昨年9月に東京で開催）。

2. 結果概要

○ASNからはドロズック委員長、カデ＝メルシエ委員、エヴラール委員、ラシヨーム委員他が、原子力規制委員会田中委員及び安井原子力規制特別国際交渉官他が出席して、意見交換が行われた。

- 原子力安全分野については、規制の人材確保・育成が重要だという認識で一致した。
- 原子炉の安全性の分野については、フランスから制御棒案内管のサーマルスリーブの摩耗と非常用ディーゼル発電機の配管（燃料、油、水、空気）に関する事案が紹介された。
- 防災分野では、日本におけるヨウ素剤配布について紹介したが、先方からさらに広い範囲の課題について実務的な実施方法等に関する意見交換への希望があった。

○日仏両国の規制当局は、今後とも、原子力発電所の継続的な安全性向上に向けて緊密な情報交換を行っていくことで合意した。

○なお、4日はカダラッシュ研究所の LECA（照射済燃料分析ラボ）等を視察し、5日はマルクールのフェニックス原子力発電所の廃止措置を視察した。